

MONTHLY-J

マンスリーJ

11・12月合併号

2008 NOVEMBER・DECEMBER

緊急レポート JGAP導入の利点を、農場・団体は本当に得られているか!?

JGAP認証農場・団体へのアンケート調査報告

2006年にJGAP認証制度が正式スタートして以来、2008年7月までに、認証数は90（個別・団体。農場数では238農場）を数えるまでになりました。JGAPはGLOBALGAPとの同等性認証を得ており、JGAP認証を取得した農場は、「世界でも通用するレベルのGAPを導入した農場」「本物のGAPを本気で導入した農場」ということとなります。日本GAP協会では、これらの農場がJGAP導入の利点を体感できているか、アンケート調査を実施しました。今回はその結果を報告します。

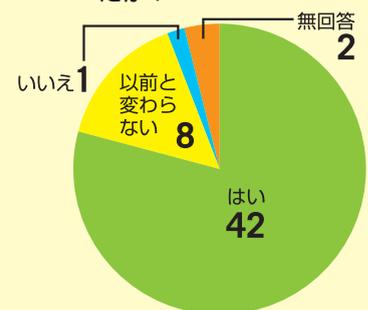
JGAP導入で得られるメリットをどう受け止めているのか？

JGAPは農場・団体管理の新しい手法（道具）であり、農業生産者・団体は、これを活用して農業経営を改善していくことが大切です。一方で、それによって得られる利点（メリット）は、各事業者の創意工夫によって多様なものがあり得る、というのが最近の社会全体の認識となってきました。

日本GAP協会では、下記の3点をJGAP導入で得られる中心的な利点として提示してきました。

今回のアンケートでは、JGAP認証農場・団体にこれらの利点がどう受け止められているか、その実態を調査しました。2008年7月31日時点で認証されている90団体・農場を対象とし、そのうち回答のあった53団体・農場の結果をまとめました。

問1 JGAPへの取り組み、およびJGAP審査・認証取得を通して、農場管理や団体管理の改善を図ることはできましたか？



グラフの数値は回答のあった53団体・農場の内訳です。割合ではありません。

JGAP導入で得られる中心的な利点

農場管理を改善できる

農産物の安全を確保し、環境に配慮し、生産者にも安全で働きやすい農場を実現することができる。

農場管理を効率化する

農場の作業標準化に基づく効率的な農場管理を実現することができる。

農場管理の良さを販売に活かす

農産物の販売先との信頼関係構築にJGAP認証を活用する。認証を得ることで、信頼できる取引先であることを、農産物バイヤーをはじめ社会全体へアピールすることが可能になる。